

¡NO PASARÁN! 奴らを通すな

国際運輸労連と反ファシズムの闘い

20 世紀におけるファシズムとの闘いは、1939 年の第二次世界大戦勃発と共に始まったものではありません。反ファシズムの闘いはその何年も前から続いていたのです。その中で、人種優越主義、反ユダヤ思想、軍国主義と独裁政治を基礎としたこの猛毒イデオロギーが持つ危険性をいち早くに察知したのは、労働組合家たちでした。

労働組合家たちは、ファシズムの主たる標的で弾圧を受けました。イタリアでは、ムッソリーニが権力を掌握した 1922 年以降、ブラックリストに載せられ、処罰されました。ストは違法となり、ファシスト政権の反対派は容赦ない迫害を受けました。

ドイツの組合家たちも、ヒトラーが政権をとった 1933 年以降、同様の運命に苦しみました。組合は解散させられ、資産は押収され、何万という活動家たちがナチスの強制収容所に送られました。

そうした時代に労働組合は抵抗し、ファシズムと闘いました。独裁者が支配する国ではその弾圧下で秘密裡に、ファシズムとの宥和という悲劇的な政策を選んだ政府の下ではより公然と闘いました。

交通運輸労働組合と国際運輸労連（ITF）はこうした闘いで指導的な役割を果たしたのです。

反ナチス闘争

当時アムステルダムに本部を置いていた ITF は、ドイツでヒトラーが権力に上り詰めた 1933 年から、反ナチスの地下活動を積極的に展開しました。ITF の役員たちは地下組織を通じて訪独し、反ファシズムのパンフや情報紙を労働組合の秘密ネットワークを介して配布しました。

しかし、発覚すれば重大な危機が待ち構えていました。1904 年から 1916 年まで ITF 会長であったハーマン・ヨハーデは非合法化されたドイツ鉄道労働者協会連合

(Einheitsverband der Eisenbahner Deutschlands) のリーダーでしたが、1939 年に強制収容所で看守に殴り殺されました。

ナチスの手によって殺されたのは、ヨハーデにとどまりません。ノルウェー鉄道労組のルドビック・ブランジャやフランス CGT 鉄道労連のピエール・セマルドも殺害されています。

1933 年から ITF は、隔週で「ドイツを覆うかぎ十字 (Hakenkreuz über Deutschland)」を発行しました。その後、「ファシズム (Faschismus)」と改題し、誌の対象をイタリア、オーストリア、スペイン、ポルトガルに拡大しました。ITF はこの出版を 1945 年の第二次世界大戦終了まで続けました。

出版物の大部分はオランダで印刷され、オランダ人の内陸水運船長や船員によってドイツへ密輸されました。こうした活動は、ファシズムに対する政治意識を早くから同国で育み、多くの市民に秘密工作をしたり地下組織を作る機会を与えたのであり、そうした体験は第二次世界大戦中ずっと役立つことになるのでした。

スペイン内戦

1936 年から 1939 年まで、反ファシズムの国際的な大義は、フランコ将軍率いる反乱軍とそれを支援するヒトラー・ムッソリーニからスペイン第二共和政を防衛することになりました。

欧州で新たにファシストが政権を奪取することを阻止しようと、ITF と世界中の交通運輸組合はスペイン内戦で積極的な役割を果たしたのです。

フランコの勝利はファシスト独裁者たちを煽り、破局的な世界戦争が不可避となると彼らは警告しました。それが正しかったことは証明されます。スペイン第二共和政の敗北からわずか 5 ヶ月後の 1939 年 9 月に英国とフランスはヒトラーのドイツに宣戦布告したのです。

多くの交通運輸労働者はまた、国際旅団に参加しました。世界 50 ヶ国以上から 3 万 5 千人の義勇兵が武器を取りスペイン共和政のために闘い、国際連帯を見事に示したのです。

加えて、労働組合が人道支援の先頭に立ち、食料や医療品をスペインに送ったり、戦火から難民を救い出したのです。

第二共和政は、社会改革を進め、女性に選挙権を与え、教育を広め、首都マドリードの権力を地方へ分譲させていたのです。

こうした動きは、スペイン社会の反動勢力やファシストにとって忌まわしいものでした。一方、西欧の民主主義諸国は内戦から距離を置き、共和国との武器売買を禁じ、事実上その敗北を強要したのです。

英国とフランスは「不干涉」政策を実施し、合法的にスペインと貿易していた商船が攻撃されることに目をつむったのです。ドイツやイタリアの爆撃機や潜水艦によって、多くの船員が死傷しました。少なくとも 29 隻の英国籍船が撃沈されています。

唯一、ソ連とメキシコが第二共和政を支援しました。しかしイタリアやドイツがフランコを支援するために送った武器、飛行機や戦闘員の数が圧倒的でした。フランコに同調的な米国企業が売った石油やトラックといった物資によっても反乱軍は勢いづいたので

す。

スペイン内戦は、私たちの時代が体験する初めての本格的な「近代戦争」で、都市の中心部をファシストたちは意図的に狙いました。一例はゲルニカの爆撃であり、それはパブロ・ピカソが第二共和政に贈った同名の絵画に描かれています。

第二次世界大戦と同様、この内戦でも戦闘員よりも多くの市民が殺されました。また、何万という難民がファシストの進撃するスペインを逃れるという光景は、その後の第二次大戦時に欧州中で繰り返されたのです。

スペイン支援の諸行動

スペイン共和政を支援せよという呼びかけに応え、フランコが制圧する港に向かう多くの船舶が組合の行動によってボイコットされました。ITF は基金を設置し、共和国側へ船で食料を運びました。ITF 書記長のエド・フィメンや他のリーダーたちは支援態勢をつくるため、数回にわたりスペインへ渡航しています。

ある報告によれば、反ファシスト軍側で闘う ITF 独自の民兵団があったと言います。

内戦が勃発すると、ITF は武器が反乱軍に届かぬよう、すべての貨物を査察するよう加盟組合に要請しました。

スペイン訪問の際、ITF の指導者たちは現地の交通運輸労働組合と会い、支援態勢づくりを協議しました。救急車二台が贈られ、戦闘で死亡した組合員を救済するための基金が設置されました。

北欧諸国の交通運輸労組は、フランコのスペインに対する完全ボイコットを求めましたが、自国の「不干涉」政策に逆らいたくない英国の組合はこれに抵抗しました。

しかし、アントワープの港湾労働者など、幾つかの組合は行動に出たのです。

1936 年 8 月、ノルウェー交通運輸労組 (NTF) は、その全支部に通達を出し、ノルウェーの港を通じてスペインのファシストへ武器や弾薬が送られぬよう監視することを指令しました。

同時に、そのナショナルセンター (AFL) は同労組の支援を受け、スペインの組合や社会党を財政支援することをめざす連帯キャンペーンを開始しました。

1936 年秋、ノルウェー船員労組 (NSF) は、ファシストが制圧するスペインの港すべてをボイコットすることを訴え、そうした港へ向かっている組合員は下船するよう求めています。

550 人以上のデンマーク人がスペインへ渡って国際旅団で闘いました。その大部分は船員でした。

デンマーク海運機械工組合のリチャード・イエンソン議長は、スペイン政府が所有する船舶会社の代理人となり、船舶を買収したりチャーターし、デンマーク人船員を使って、共和国へ武器や弾薬を密輸しました。

ドイツでは、ハンブルグの港湾労働者を中心とする ITF の秘密情報ネットワークを通じて、スペインに遠征していたヒトラーのコンドル兵団に送られる武器の情報を収集することができました。

スペインへの船舶輸送を監視するため、カーディフ、ロッテルダム、アントワープ、グディニアに ITF の監視台が設置され、幾度となく武器や弾薬の輸送を阻止しました。

フランコが制圧する港からも、船員たちが軍事情報を ITF へ伝え、これはスペイン共和政の関係機関へ転送されました。

しかし、フランコの勝利が明確になった 1938 年末からは、スペインにおける ITF の活動は難民救済へ比重を移すようになるのです。

船員による連帯行動

以下は、1936 年から 1938 年に出版された ITF のドイツ語地下出版物「海運 (Die Schifffahrt)」の「スペインの情勢について」という文章からの抜粋です。

反動的なファシスト軍閥に対するスペインの働く人々の闘いは続く。すべての労働者と農民、すべての船員と賃金労働者は、この戦争の意味を知っている。働く者たちは、パンと自由のために、つまりスペイン社会主義のための闘っているのだ。

反乱軍の将校たちは、労働者とその労働組合や政治政党を抑圧するために闘っている。反進歩的な独裁制の下、邪悪な聖職者の力を用いて、暴利をむさぼる資本家と反動的な地主たちによる支配を束ねたいのだ。

ドイツの ITF 集団は、すべてのドイツ人船員・船頭の連帯の意を実践的な形で表してきた。つまり、活動家や組合委員の一群がスペインに渡り、人民政府と共にファシストとの闘いに参加しているのだ。

ドイツ人船員たちよ！ドイツの各港からスペインのファシストへと向かうすべての武器輸送を報告せよ！あらゆる手段を使って、それを阻止せよ！ファシズムを倒せ！スペイン労働者と農民の勝利よ、永遠なれ！

オランダ人の指導者たち

当時の ITF の中枢にいた三人のオランダ人が、反ファシスト闘争の中心人物でした。

書記長としてエド・フィメンは、ファシズムが欧州に台頭した時期の ITF を指導しました。フィメンは、ナチス・ドイツにおける地下活動の指揮のほぼすべてを自ら執り、スペインの民主主義擁護という大義を強く支持したのです。

ナサン・ナサンズは、オランダ鉄道の元事務員で、1924 年以降 ITF 書記次長でした。スペイン内戦の早い時期から共和政のために運動し、1937 年にブラッセル近郊で起きた飛行機事故で亡くなるまで休むことなく続けました。スペイン難民を救済するために渡航中でした。

1942 年にフィメンが他界すると、ITF 書記長職は再びオランダ人であるヤップ・オルテンブルグによって継がれました（その後、1949 年より国際自由労連の初代書記長）。

オルテンブルグは、ナチス打倒のため、ITF の労働組合秘密ネットワークを使い、連合軍の情報機関と協力しました。枢軸国が使用する運輸施設の妨害工作など、オルテンブルグは多くの非公然活動を指揮しました。

記憶にとどめよう

ファシズムに反対した交通運輸労働組合の仲間たちの英雄的な取り組みを、今日振り返ることには意義があります。近代的なファシズムは、20 世紀の最初の数十年に台頭しましたが、この有毒な教条はその本性を隠そうとしながら今世紀に生き続けています。ファシズムに刺激された思想信条は、労働者を分断し、人種差別や民族対立を煽り、労働組合を破壊し、人権を踏みにじり、戦争を引き起こす力を今でも持っているのです。

世界の労働組合は、こうした脅威を前に警戒心を常に持ち合わせなくてはなりません。そうする中で私たちは、あの時代の勇敢な交通運輸労働組合の仲間たちから感銘を受けるのです。彼らこそは、大きな困難に直面し、多くの場合に自らの命を犠牲にしながら、最初にこの反ファシズムのスローガンを口にした人たちなのです。

「奴らを通すな！ ¡No pasarán！」